

ちほみのり速報

No.9

『早生』多収米の確立を目指して!!

8月1日の梅雨明け以降は平年を上回る気温が連日続いています。籾水分が平年より早く低下し、刈遅れによる胴割粒の発生が懸念されるため、籾水分を確認し、適期収穫をお願いします。出穂期以降の高温の影響で乳白粒・未熟粒の多発が予想されるため、水管理を最後まで心がけてください。ちほみのりは、4月下旬の田植えで、7月11日に収穫期をむかえ、成熟期は8月19日頃となる見込みです。最後まで登熟可能な環境作りを最後までよろしくお願い致します。

1. 刈取予想（目安）

移植日	4月下旬
出穂日	7月11日
成熟期	8月19日

今年の『ちほみにり』は、草丈が昨年よりやや長くなりましたが倒伏も無く収穫期を迎えられそうです。また、茎数は昨年並みで推移しました。積算温度による刈取り予測は8月20日ごろから、圃場の状況に応じた刈取りと丁寧な乾燥調整を行いましょう。



2. ちほみのり栽培管理のポイント！

①ちほみのりの刈取期判定

◆積算温度から…

出穂日から積算温度による刈取り開始日を予測

- 積算温度：950～1,000℃
- 出穂後日数：35～40日

◆登熟歩合（穂軸調査）から…

- 帯緑籾率（青籾）：10～15%

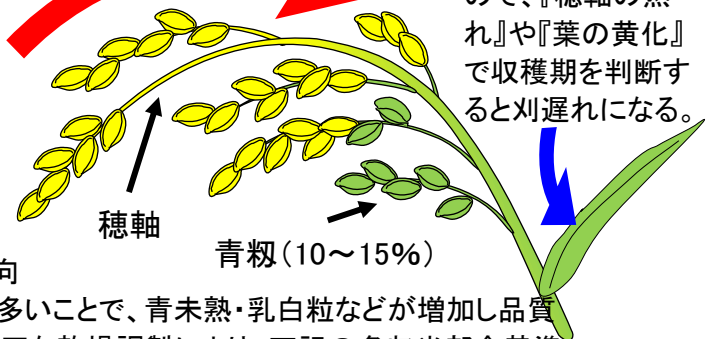
◆籾水分25%より若干早めに収穫を開始し、刈り遅れ防止に注意する。

適期刈取により、収量アップを目指しましょう。

★先端から黄化が進む

★注意!!

葉色が落ちにくいので、『穂軸の熟れ』や『葉の黄化』で収穫期を判断すると刈遅れになる。



②ちほみのりの乾燥調整

多収米の品質（品位）傾向

多収米は、着粒・籾数が多いことで、青未熟・乳白粒などが増加し品質が低下する傾向です。適正な乾燥調整により、下記の多収米部会基準を厳守下さい。

収穫後は、すみやかに乾燥機に張り込み、高温乾燥を避け水分が18%程度となったら乾燥を一時休止し調湿させ、仕上げ乾燥を行う。

③品質・調整基準（多収米）

A) 品質（品位）：2等級以上

- *整粒：60%以上
- *未熟粒（乳白粒）：20%以下

B) 仕上げ水分：14.5～15.5%

- *水分高：15.6～16.0%
- *規格外水分：16.1%以上

C) ライスクレーダー網目：1.9mm

- *整粒向上と未熟粒の混入防止

